



小山台

学校だより
10月号
令和8年9月29日
横浜市立小山台小学校

たけ 竹のようにしなやかに

じどうしえんせんにな かじはら けんた
児童支援専任 梶原 健太

早いもので今年度も折り返しを迎えました。4月にはランドセルが大きく感じられた1年生が、毎朝しっかりと足取りで登校し「おはようございます!!」と元気に挨拶をする姿に頼もしさを感じます。学校全体が来月の運動会へ向けて動き出しました。当日、大きなご声援をいただけると幸いです。

夏休みのある日の出来事です。近くの公園で鉄棒を練習している小学校2年生くらいの男の子がいました。近くには親御さんもいました。その子は泣きながら何度も何度も逆上がりの練習をしていました。途中で手が滑って尻もちをついても、泣きながら再び鉄棒を握っていました。近くにいる親御さんは「いいぞ、いいぞ!」と見守っていました。その子の姿を見て、私は「あ!最近、カタカナで見たあれだ!なんだったかな。」とすぐに生成AIを起動しました。そこには『非認知能力』『レジリエンス・立ち直る力』と回答がありました。

非認知能力とは、テストの点数やIQのように数値で測れない心の力や社会性の力のことです。学力などの「目に見える力」を支える「根っこ」のような役割を果たしています。自分に関する力、他者に関する力、課題に関する力などがあります。立ち直る力（レジリエンス）とは、失敗やトラブル、ストレスなどのショックを受けたときに、折れずにしなやかに立ち直る心の力のことです。ストレスを完全にゼロにする力ではなく、「傷ついてもしなやかに元に戻る力」を指すそうです。竹に例えると分かりやすいとのことでした。硬い枝はすぐにポキッと折れてしまいますが、竹はしなやかに受け流し、もとに戻り、力強く生長していきます。小山台小の子どもたちにもこの力を伸ばして欲しいと感じながら、日々向き合っています。学習でのつまずきや友達とのトラブル、自分がやりたかった役割ができなかったなど様々なことが学校ではあります。その時に落ち込んでも「まあいっか」「次はどうしよう」と気持ちを切り替えられる。「自分はダメだ」ではなく「良い経験になった、次に活かそう」と考え直せる。自分一人で抱え込まず、信頼できる人に相談して頼ることができる。これらのことが大切なのではないかと思います。どのように立ち上がっていくのかを子どもや保護者、学校が一緒になって考えていけるような小山台小学校を共に創り上げていけると嬉しいです。何かありましたらお気軽にお声がけください。

非認知能力（ひにんちのうりょく）とは？

